

# 学校地域WIN-WINプロジェクト フォーラムについて

## 【主旨】

- ・実践研究校の取組の成果の普及
- ・学校職員と企業・NPO等の方との交流
- ・大人たちがそれぞれの立場で何ができるかを考える機会

## 【参加者：約230名】

実践研究校の生徒、県立学校の教職員、島根県教育委員会・同県立学校の生徒、企業、NPOなど

平成31年

1月15日（火）13:00～

会場：埼玉県県民健康センター  
大ホール 会議室A・B

## 学校地域WIN-WINプロジェクトフォーラム

### 1 開会

○挨拶

埼玉県教育委員会教育長 小松 弥生

### 2【第Ⅰ部】全員参加グループセッション（13:05～）

○小グループ（10人程度）で生徒と大人が協議します

〈参加者〉約230人

生徒・・・県立小川高等学校・県立庄和高等学校・県立鳩山高等学校・県立吉川美南高等学校  
県立越谷西特別支援学校・島根県立隠岐島前高等学校・島根県立津和野高等学校

関係者・・・県立学校教職員、自治体職員、企業 等

ファシリテーター 豊田 庄吾 氏

（隠岐國学習センター センター長）

福岡県大牟田市出身。大手情報出版会社を経て、人材育成会社にて大手企業・中央省庁の研修講師を務める。また、経済産業省の起業家教育促進事業で、全国300校以上の公立学校にて起業家精神育成の授業実績あり。2009年11月海士町（あまちょう）に移住。高校魅力化プロジェクトに参画し、高校連携型公立塾、隠岐國学習センターを立ち上げ、現在同センター、センター長。学校と地域が一体となった人づくりの実践者として、奔走中。島根県社会教育委員。総務省地域力創造アドバイザー。

### 3【第Ⅱ部】社会に開かれた学校に向けてのパネルディスカッション（15:45～）

○現場の教員が実践をもとに「開かれた学校」についてアイデアを出し合います

〈ファシリテーター〉高校教育指導課 教育指導幹 石川 薫

〈パネラー〉小川高校教員・庄和高校教員・鳩山高校教員・吉川美南高校校長・越谷西特別支援学校教員  
島根県立隠岐島前高校教員

### 4【第Ⅲ部】交流会（16:35～）

※参加費200円

○リラックスしながらの交流・名刺交換を行います

〈参加者〉生徒、県立学校教職員、自治体職員、企業 等

### 5 閉会

## 平成30年度 学校地域WIN-WINプロジェクト フォーラム

### 教育長挨拶（要旨）

- 多くの皆様のご出席のもと、フォーラムが開催できますことに感謝申し上げます。
- 身近な地域にある課題の解決に向けて、生徒たちが解決に向けて様々に考え、考えた解決方法が実行されることは素晴らしいことだと思います。
- このWIN-WINプロジェクトは、生徒たちが考え、行動したことが「実社会で役に立った」という体験が、地域の様々な場所で起こることを願って始めた取組です。このような取組はこれからの学校づくりにとっても、地域や企業の皆様にとっても良い取組になると考えています。
- 本日のフォーラムでは、全員参加のグループセッションを行います。島根県の隠岐國学習センター長である、豊田 庄吾 様にファシリテーターを務めていただき、初対面の様々な立場の方々と語り合ってください。
- これからの少子高齢化の時代、地域創生が求められている時代に、よりよい教育環境を準備しなければならない大人たち一人一人が、それぞれの立場で、何を考え、どのように行動していく必要があるのかについて、考える機会になればと考えています。
- 今日のフォーラムが、皆様にとりまして新たな出会いの場となり、また、次の楽しいことを考え出すきっかけとなることを願っています。



### 【第1部】全員参加グループセッション

- ファシリテーター 豊田 庄吾 氏（隠岐國学習センター センター長）
- 活発な意見交換を促すため、1グループ約10人。椅子を円状に並べる。
- 生徒1～2名と、多様な職種の大人がミックスされたグループを事前に構成。

豊田氏：「探究的な学び」の意義や価値を一人一人が理解し、自分の立場で、今後何ができるのかを考えることが今日の目的になります。



### 【チェックイン】8分

- 「いい教育とはどんな教育か」について、自分の考えをA4の紙に書く。
- 自己紹介と書いた内容をグループ内で一人ずつ述べていく。
- グループ内での仕切り役を決める。

豊田氏：今日、大事にしていきたいスタンスは、主体的（「自分たちでつくる」当事者意識、不便を愉しむなど）・対話的（安全安心、自己開示、傾聴、問い、違いを愉しむ、手放すなど）・深い学び（オープン＆フラット、内省、省察、メタ認知、挑戦・失敗、遊びなど）です。

学びの責任はだれにあるのでしょうか。先生か、自分か、どちらにもあるのか。子供たちにこの質問をすると、8割の子供は「どちらにもある」と答えます。

私は、最近、学びの責任は生徒（学ぶ人自身）にあると考えています。大人が何かを学ぶ時、先生はいませんね。学ぶ力は急に身につくものではなく、自分自身で学びを捜しに行ったり、学びをつくったりしながら、不便を楽しむことで学ぶ力が育まれます。

便利は依存を生みますが、不便は自立や知恵、協働などを生み出します。不便の方が頑張れます。今日は皆さんで学びをつくっていきましょう。いろいろな立場の方が参加しているので、いろいろな方々との対話を楽しんでください。

#### 【セッション1】25分

- 実践研究校と島根県の生徒が取組の説明（取組の概要、何を学んだか、どんな変化を感じているか、どう成長したか、など）
- 生徒の取組を基に対話（生徒が語った内容について、意見を交換させる中で学びを深める。）
- 対話後、次のセッション2に向けての改善策等を話し合う。



#### 【セッション2】25分

- 大人だけが場を移動する。
- 新しくできたグループで、セッション1と同じように生徒が取組を説明し、セッション1の内容を踏まえながら、新たな対話を行う。



#### 【休憩】10分

- ※休憩後、第2部パネルディスカッションを実施し、その後、セッション3を実施

#### 【セッション3：マグネットカフェ】25分

- セッション1・2を通して、自分が話したいテーマ（問い）を考え用紙に記入し、テーマが似ている人同士、直感でこの人と話したいと思った人同士で集まってグループを作り、対話する。※話しやすい環境は自分たちでつくる。

#### 【セッション4：学びのシェア】15分

- セッション1のグループに戻り、今日の学びと、「楽しく・労力がかからない、リスクが少ない、3日以内に実行できる『小さな一歩』」（今日の学びを活かし自分が取り組みそうなこと）を用紙に記入し、シェアする。



【参加者より（代表）】

教 諭：特別支援学校でどう地域連携ができるかを考えています。今日のフォーラムで挑戦する決意ができました。

生 徒：生徒と地域は関われるのかと思っていましたが、部活動を通じてできるんだと感じました。大人の方と話して、他にもこういうやり方があるんだと、今まで考えつかなかったアイデアがもらえました。

【まとめ】

豊田氏：変化するときには、変化する前の状態を否定しないことが大切です。変化は途切れているものではなく、つながっているものだからです。探究的な学習は、行動・実践することで身に付きます。我々大人が実践していくことがこれからの学校づくりにつながっていきます。

【第2部】社会に開かれた学校に向けてのパネルディスカッション

□ファシリテーター 石川 薫（高校教育指導課 教育指導幹）

□パネラー 谷野 浩人（小川高校 教諭）

奥井 亘（庄和高校 教諭）

鈴木 聡（鳩山高校 教諭）

内田 靖（吉川美南高校 校長）

神野竜太郎（越谷西特別支援学校 教諭）

岡本 敏明（島根県立隠岐島前高校 主幹教諭）



石川：小川高校は地域の様々な行事に企画の段階から参画しています。御苦労されたことは何ですか。

谷野：音楽部・バレ一部・放送部などの町と連携する活動では、町のそれぞれの課で依頼を受けて実施していました。これを取りまとめて、学校として取り組むこととなりました。イベントだと土日の活動が多くなり、部活動や学業との兼ね合いがあります。

石川：工夫された点は何ですか。

谷野：7月に小川町と小川高校で包括連携協定を結びました。

石川：庄和高校は、商工会と連携し商店街の活性化に取り組みました。悩んだ点は何ですか。

奥井：生徒との距離感、関わり方に課題が残りました。課題の設定など、生徒にどのように指導したら良いのか、教員としてのスキルなどに悩みました。

石川：取り組む上で先生方が意識していた点は何ですか。

- 奥井：生徒の主体性に重点に置くことです。夏休み前に中間発表を行い、計画を立てました。生徒が動く地域は協力してくれます。生徒を信じて任せてみることも大切です。
- 石川：鳩山高校は生徒会を中心に桜で有名な町にしたいと取り組んでいます。大変なことは何ですか。
- 鈴木：桜並木をつくって人が集まる町にしたいと考えました。生徒と町との関係性をどのようにつくるのが大変でした。桜の植樹となると学校の考えだけでなく、場所や管理の問題で行政上の課題が生じました。
- 石川：先生方が工夫した点は何ですか。
- 鈴木：広報活動を重点的に行いました。今後、工夫できる点としては、地元の大学・小学校・中学校にも呼びかけをして、高校発信で広めていきたいです。
- 石川：越谷西特別支援学校は、日本工業大学と越谷総合技術高校と連携し、名刺作成や運動支援のソフトを開発しました。生徒が生き生きとしている点が印象的です。生徒の様子などを教えてください。
- 神野：イベントなどで名刺を作成する中で、お客さんの「ありがとう」という言葉に生徒の笑顔が見られました。授業と社会とのつながりを肌で感じることができました。
- 石川：若い先生が中心になって取り組んでいる点についてどうですか。
- 神野：管理職や先輩に相談にのってもらっています。自分たちが何をしたいのか、何をやっているのかを学校の先生方に知ってもらい、協力を得ることができました。
- 石川：吉川美南高校では、市と連携して生徒たちが町づくりに参画しています。なぜこの事業に取り組もうと思ったのですか。どのように進められましたか。
- 内田：「よりよい学校教育を通じたよりよい社会づくり」、「社会に開かれた教育課程」というテーマに向かう上で、地域に打って出なければと思い取り組みました。
- 石川：新しい取組に対してどのように対処されましたか。
- 内田：教員の負担は減らすように打ち出しました。土日の出張はできる限り代表で対応し、学校説明会の回数も減らしました。朝会は1分で終了し、先生は早く教室に行って生徒と対話する時間を確保しました。
- 石川：島根県立隠岐島前高校の取組で大切にしていることは何ですか。
- 岡本：一人でやらない、チームで行うことです。生徒の変容を実感できるようにしています。
- 石川：うまく進む秘訣は何ですか。
- 岡本：隠岐島前高校は、成功事例ではなく挑戦事例です。生徒、教員とも振り返りを重要視しています。しかし、ややもすると積上げ式になり、負担増となってしまいます。職員会議を工夫し対話時間を設定し、当事者意識を高めています。一人ではなく、チームで生徒に伴走しています。
- 石川：開かれた学校づくりは、様々な立場の方たちが、お互いの力を発揮して課題解決に取り組むことが大切です。そのことは、生徒の成長を促し、より良い社会づくりにもつながっていくのではないのでしょうか。

### 【第3部】交流・名刺交換

- 約160名の参加者のもと、新たな出会いや、共通の課題などを語り合う場をして実施。
- 生徒の名刺については、県立越谷西特別支援学校の生徒が作成。



## 平成30年度 学校地域WIN-WINプロジェクト フォーラム 【アンケート集計】

※は複数回答可

### ● 学校地域 WIN-WIN プロジェクトフォーラムに参加したきっかけは。※

学校と地域・企業の連携に関心がある	75%
実践研究校の取組を知りたい	35%
島根県の取組に関心がある	19%
ファシリテーターの豊田氏の話が聞きたい	15%
ディスカッションが楽しみ	8%

### ● 学校地域 WIN-WIN プロジェクトフォーラムに、どんなことを期待して参加しましたか。※

学校と地域・企業の連携のノウハウを学びたい	80%
島根県の取組を知りたい	22%
ディスカッションでの学び	23%
人脈づくり	20%

### ● ディスカッション中心のフォーラムに参加したことがありますか。

ある	15%
ない	85%

### ● どのようなことを交流会に期待していますか。(交流会に参加する方へのご質問) ※

異業種の方とのつながり	50%
同業種の方とのつながり	24%
島根県の方との人脈	14%
実践を積んだ生徒との交流	33%

【良かった点・改善点・ご意見等】 ※原文のまま掲載しております。

#### □ 良かった点

- ・参加者が主体的に学べる。豊田氏の講義（進行の仕方）
- ・発表校の具体的な実践を深く知る事が出来て良かった。
- ・様々な方の意見が聞けて参考になりました。(多数)
- ・色々な立場の方との交流ができたこと。(多数)
- ・立場混在でのディスカッションはとても新鮮でした。
- ・参加者全員が考えや意見を言い、対話的な会議となった点。
- ・参加者が積極的で話が尽きなかった。
- ・生徒の成長する姿を実際に見ることができた。
- ・限りなく保守化していく自分への反省となった。
- ・生徒の良い発表の場となっていた。
- ・生徒の成長の生の声が貴重である。
- ・高校生の率直な話が聞けて参考になりました。(多数)
- ・参加者一人一人が参加することに責任を持てた点。
- ・一方通行でない点。
- ・主体的に考えようとする気持ちが盛り上がる感じがする。
- ・実際に参加した高校生の表情が大変良く、取組後の満足感を見ることができました。

## □ 改善点

- ・グループセッション、パネルディスカッションの全体的な流れとともに、少し詳しい項目立てを事前に示して欲しかった。
- ・参加者が多く、会場が狭かった。(良い意味で)
- ・プロジェクト自体のそもそものテーマなどの深いところの話が聞きたいと思いました。
- ・生徒にはテーマが少し難しかったと思う点。
- ・グループの人数をもう少し減らしたい。
- ・研究結果の報告会なのか、活動を通して生徒が何を学べて何が身についたのか、ディスカッションの内容、方向性が曖昧になり、まとまった話し合いになっていなかった。
- ・高校生が入る場面も必要だが、生徒は別のセッションがあった方が良かった。
- ・学校の苦勞が知りたかった。
- ・パネルディスカッションが間に入るとインプットが長くなり、雰囲気、場づくりの観点で課題が残ったように感じた。

## □ ご意見等

- ・大変楽しい研修でした。定期的に研修を続けてもらいたいです。
- ・大変貴重な機会をありがとうございました。より多くの人に、直接参加し、実感して頂きたいです。継続頂けますことをお願い申し上げます。
- ・高校生と共に学ぶ機会は貴重でした。
- ・地域連携の目的・ねらいを意外と多くの現場の方が御存知なかったです。
- ・企業は行政のスピードを理解すべき。点ではなく面での支援を検討する必要あり。
- ・しっかりリフレクションを行い、地域に開かれた学校、地域の期待に応えられる学校づくりの参考とさせていただきます。
- ・参加した高校生がとても成長しているのを肌で感じました。
- ・自校でも地域活性化も含めてやってみたいと思った。
- ・異業種の方々とも交流ができて、とても勉強になりました。
- ・グループセッション及びパネルディスカッションは今後の授業計画を考える上で、大変参考になりました。色々な方の生の声やアドバイス、意見を受けて大変刺激になりました。
- ・3つの別のグループのしかも生徒のいるディスカッションは初めてで、だんだん慣れるにしたがって雰囲気も良くなってきた。今後も同様の企画があれば良いと思う。
- ・教員、行政、企業、高校生と意見交換ができてとても有意義でした。一部の生徒ではなく、全校生徒に当事者意識を持たせ、「地元愛」を育む地域と連携した探究活動を実現したいです。良い勉強になりました。
- ・高校生が地域に目を向けるというのは果たして本当に生徒が興味を持つのだろうかという疑問がありましたが、生徒の前向きな意見が聞けてとても良かったです。放課後や部活等の活動が主になっている印象でした。時間外労働・・・、授業の中で教科を超えた取組があったら聞いてみたいと思いました。参加者人数の多さに驚きました。地域との取組への関心の高さが伺えたことが今回の一番の収穫でした。
- ・豊田ファシリテーターの進行に敬服します。グーチョキパーの話は心に残りました。地域との連携を全体の業務の負担増にならないようにすることが課題です。